（別紙様式）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ａ３判横）

# 平 成 ３０年　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県 立 芸 術 総 合 高 等 学 校 ）

| 目指す学校像 | 学芸を共に高め合い、芸術文化を担う人材を育成する高校 |
|---|---|

| 重　点　目　標 | 1　芸術的表現力と共通教科の学力向上を目指す意力の育成<br>2　芸術文化を担う人材としての人間性と社会性の獲得<br>3　芸術系進学重視型専門高校としての期待に応える進路実績の確保<br>4　芸術文化の発信による地域社会の活力づくりの推進 |
|---|---|

| 達成度 | | |
|---|---|---|
| | A | ほぼ達成（８割以上） |
| | B | 概ね達成（６割以上） |
| | C | 変化の兆し（４割以上） |
| | D | 不十分（４割未満） |

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　９名
　　　　生徒　７名
　　　　事務局（教職員）　５名

学　校　自　己　評　価 ／ 学　校　関　係　者　評　価（実施日　平成３１年３月６日）

| 番号 | 現状と課題（年度目標） | 評価項目（年度目標） | 具体的方策（年度目標） | 方策の評価指標（年度目標） | 評価項目の達成状況（年度評価（２月１日現在 )） | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **■現状**<br>・芸術系４学科のみを有する専門高校として設置され、今年度で１９年目を迎えた。開校以来、第一線で活躍する外部講師や関係機関等と連携しながら高度な芸術教育を展開し、生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出すための教育活動を推進している。<br>・共通教科（数学・英語）において、少人数授業を実施するとともに、補習や課題等で生徒のニーズに応じたきめ細かい学習指導を展開している。<br>**■課題**<br>・芸術に特化した専門高校として、生徒の芸術的な創造力や表現力の更なる向上を目指した先駆的、先進的な取組を実施するとともに、質の高い授業を展開する必要がある。<br>・生徒の専門教科と共通教科の学習バランスに対する意識を高め、学力向上を目指す意力を鼓舞する取組をより一層推進する必要がある。 | 1　専門性深化・向上のための授業改善及び指導体制の確立 | ①【美術】美術教育に関連する外部団体との連携による指導法の研究と教員研修の実施【音楽】専攻・副科実技のレッスンの重要性を認識させる指導の実践【映像】平成31年度入学生に向けたカリキュラムの改変と学習内容の新体系化に着手【舞台】専門授業に関する教員研修会の開催と鑑賞学習・特別授業の更なる充実<br>②学校行事や学科活動等における学科の枠を越えた学習成果発表の積極的鑑賞とピアレビューの実施<br>③効果的・先進的な取組に対する積極的な予算投入と施設・設備や教材を含めた芸術系専門学科高校としての拘りとプライドが持てるような教育環境の更なる充実 | ①②③「学校生活満足度調査」における専門教科への意欲的な取組を示す調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。<br>①大学や外部機関等との連携の実績数及び実施後の生徒の反応、事後レポートやアンケート等の結果から知識・技能の向上がみられるか。<br>②学科を越えた生徒間の成果発表等の鑑賞やコラボレーションした取組が増加したか。<br>③予算の流動性を確保し、必要な箇所に必要な予算を投入したか。 | **■授業改善と指導体制の確立により、芸術各分野の専門性の深化・向上が実現**<br>①②③「学校生活満足度調査」における専門教科への生徒の意欲的な取組を示す調査項目の肯定回答が95%(昨年度91%)となった。<br>①大学や外部機関等との連携実績は昨年度と同程度となり、本物に触れる体験を通じた知識・技能の向上が認められた。<br>②学科（部活動）がコラボレーションした取組が実施されたり、加えて他学科の成果発表等にも興味を持って参加したり、賞賛の気持ちを表現したりする姿が多く認められた。<br>③一定程度の予算を確保し、それぞれの学科の教育活動の充実を期した。 | A | **■次年度への課題**<br>・【美術】創造的な知識・技能の更なる向上を目指した新たな授業実践方法の検討と難関美術系大学受験指導の研究が必要である。【音楽】専攻担当講師及び担任等と連携し、専門教科への意識を更に高める指導が必要がある。【映像】専攻授業「メディア表現」の指導内容の確定と指導にあたる人材の確保が必要である。【舞台】新教育課程に向けたカリキュラムの再構築と特別授業・鑑賞学習の更なる充実が必要である。<br>・生徒の専門教科と共通教科の学習バランスに対する意識を更に高め、専門教科と共通教科双方の学力向上をより一層推進する必要がある。<br>・新学習指導要領が示す育成すべき資質・能力の要素を踏まえ、更なる授業の工夫と改善が必要である。<br>**■改善策**<br>・芸術の専門性の更なる深化・向上に向けて、外部の物的・情報的・人的資源を積極的に授業において活用する。<br>・芸術専門科目と共通教科目の関連性を認識させるための工夫と学習習慣の確立に向けた取組を検討・実施する。<br>・学科の枠を超えた学習成果発表の鑑賞機会の更なる創出と意図的な学科間のコラボレーションワークを実施する。<br>・単位制制度導入によるメリットを最大限に生かし、少人数授業や習熟度別授業の実践と「高校生のための学びの基礎診断」等の活用など生徒自らが学力の向上を実感できる仕組み（PDCAサイクル）を検討・実施する。 | **■評価項目（年度達成目標）1に対する学校自己評価年度評価の達成度A及び2に対する達成度Bは妥当である。**<br><br>・長らく学校評議員を務めているが、ここ数年、良い方向へ変わってきていると感じる。学校生活満足度調査でも生徒も保護者も高い評価であり、成果が上がっている。<br><br>・生徒の学習意欲を喚起するためには、その内容を学ぶ意義を示すことが重要である。今日的な教育観を鑑みれば、大学受験に必要というだけでは意欲を喚起できないのは必然と言わざる得ない。そこで今一度、学ぶ意義を全体で協議して、特に指導者自身が担当する教科を学ぶ意義について問い直す必要がある。<br><br>・芸術に特化した高校に入学した喜びを忘れることなく、専門教科はもちろんのこと、共通教科目の学習にも手を抜くことなくしっかりと取り組んで欲しい。敷かれたレールの上を歩むだけではなく、自分の未来をイメージして自ら努力をして頑張って欲しい。 |
| | | 2　専門教科と共通教科のバランスのある学習態度の涵養 | ①専門教科と共通教科の学習バランスの適正化を意識させるため、HR活動・年次集会やガイダンス等で随時指導<br>②定期考査前の学習計画表の配布と定期考査振返りシートの活用<br>③早朝及び放課後の「自習室」の開設と定期考査前の「自習室」開設拡大<br>④夏季休業中における共通教科の補習と専門教科の行事等の日程の調整<br>⑤効果的な「朝自習」の実施と「スタディサプリ（学習支援システム）」の配信機能を利用した生徒一人一人の学習状況の定期的確認 | ①②③④「学校生活満足度調査」における生徒の共通教科への取組に関する調査項目での意識変化が認められたか。<br>④生徒のニーズに合った共通教科の夏季休業中補習講座の開設数並びに補習参加者数が前年度以上または同程度になったか。<br>③⑤朝自習や「スタディサプリ（学習支援システム）」が効果的に実施され、学習習慣の確立と隙間時間の活用に向けた有用性が認められたか。 | **■専門教科と共通教科のバランスのある学習態度はある程度涵養されたが、学力向上に向けて更なる工夫・改善が必要**<br>①②③④⑤「学校生活満足度調査」における生徒の共通教科への取組に関する調査項目の肯定回答が76%で、昨年度74%と同程度となり、意識変化が認められるまでには至らない。<br>③３年次は「自習室」利用者の増加が認められた。<br>④共通教科の夏季休業中補習講座の開講数は19講座で昨年度の1.2倍となり、参加人数も増加した。<br>③⑤朝自習や隙間時間の活用に向けた「スタディサプリ」の課題配信や動画授業等が一定程度利用されたが生徒個々の活用度合いに大きな差が生じている。 | B | | |
| 2 | **■現状**<br>・芸術に関する明確な目的意識と高い志を持って入学してくる生徒が多く、現状の学校生活に満足している生徒・保護者は約９割にのぼる。<br>・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科の教育活動において、多くの生徒が主体的に判断し、行動している。<br>**■課題**<br>・生徒の規範意識を更に高めるとともに、自立する心や責任感、他者への思いやりや社会貢献の精神など、芸術文化を担う人材としての意識・基盤を育む必要がある。<br>・自分の力で将来を切り拓き、将来の生き方を考えさせる教育を推進するとともに、生徒一人一人の実態に即した的確な支援を組織的に展開する必要がある。 | 1　芸術文化を担う人材としての自覚・意識の醸成 | ①【美術】「身だしなみ」や生活習慣の確立からプロ意識を萌芽した制作活動までを連動させた指導を実践【音楽】「音楽科」の生徒としての自覚や誇りを持たせ、大学等で更に芸術を深めようとする気持ちを育てる指導を日常的に展開【映像】作品表現において制作日程をコントロールする力と授業課題を完成するまで貫徹する力を付けさせる指導を実施【舞台】集団作業である舞台芸術分野の常識として「挨拶・返事・時間厳守・礼儀」等のマナーとルールの定着指導<br>②多角的なものの見方や心の発達を促す講演会を2回(9月・3月)実施 | ①②「学校生活満足度調査」における主体的な学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。<br>①②「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーに関する調査項目の肯定回答割合が向上したか。<br>①芸術文化を担う人材としての意識が萌芽し、生徒の行動の変化が認められるか。<br>②多角的なものの見方や心の発達を促す講演会を2回実施し、生徒の行動の変化や心の変容が認められるか。 | **■芸術文化を担う人材としての自覚・意識の醸成は概ね実現**<br>①②「学校生活満足度調査」における生徒の主体的な学校生活に関する調査項目の肯定回答が93%(昨年度89%)、学校生活の満足度（充実度）の肯定回答が89%(昨年度84%)となった。<br>①②「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーに関する調査項目の肯定回答割合が61%で昨年度(62%)と同程度となった。<br>①芸術に対して真摯に向き合う中で、多くの生徒から自立心や責任感、他者を気遣う心などの人間性の高まりが認められた。<br>②埼玉県警職員・劇団主宰者・JICA関係者・NPO法人スタッフ等による講演会を実施し、事後アンケート等から生徒の変化や変容が認められた。 | A | **■次年度への課題**<br>・芸術文化を担う人材像をより具体化、明確化するとともに、その育成方法について教職員や保護者等の学校関係者間で共有する必要がある。<br>・生徒一人一人の人格や個性を尊重しながら、芸術文化を担う人材としての自己指導力を育成する必要がある。<br>・創造的表現活動を意欲的に行うために、芸術に向き合うことによる精神面のサポートを生徒個々の実情を踏まて丁寧に行っていくことが必要である。<br>**■改善策**<br>・本校が育成すべき芸術文化を担う人材像を学校内外に周知するとともに、人材育成に向けた段階的かつ体系的な指導を実践する。<br>・芸術文化を担う人材としての意識・基盤を育むために、個別的で発達的な指導と全体的な指導を組み合わせて効果的に展開する。<br>・ルールやマナーに関する指導、身だしなみ指導、遅刻指導など生徒の社会的資質を高めるための統合的な指導を全教職員が一体となって初期段階から繰り返し実施する。<br>・人間関係の適切な処し方を学ぶとともに、自主性・自発性を大切にしながら、社会性の発達を促す学校行事や学科活動等を実施する。 | **■評価項目（年度達成目標）1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。**<br><br>・日常の学校生活の中で、礼儀や他人を思いやる気持ちは、高校生までの時期にほぼ確立されてくると言われる。人間性や社会性は、将来社会で活躍する上で、最も大切な要素であると思う。<br><br>・年度評価の結果から一定の成果が出ていると推察できる。しかし、あえてその先を目指そうとすれば、芸術文化を担う人材像についての議論をすべきだと思う。専門的な教育を受けたからこそ果たしうる芸術文化を担う人材のイメージを充実させておくことが必要だと考える。<br><br>・発表会や演奏会等、大勢の前でアウトプットしたり、それらを企画・運営したりするなどの経験から、人間性や社会性の獲得に向けて良い成果が表れているのではないか。 |
| | | 2　社会で生き抜くためのリーダーシップ・フォロワーシップの育成 | ①生徒に当事者意識を持たせるとともにチームワークを強化するため、学校行事・学科行事、授業内におけるグループワーク等リーダーシップとフォロワーシップの双方の視点を持たせる指導を積極的に展開<br>②生徒が問題意識を持っている課題について具体的な取組を主体的に行えるよう指導<br>③生徒一人一人の実態に即した支援を展開するため、保護者との連携を密にするとともに、年次会や学科会等での情報共有と外部人材や外部機関との効果的連携を実施 | ①②③「学校生活満足度調査」における学校生活の満足度（充実度）が9割程度になったか。<br>②③「学校生活満足度調査」における生徒指導・支援に関する調査項目の保護者の肯定回答割合が9割程度になったか。<br>③外部人材や外部機関等を活用した実効性の高い支援が実施できたか。 | **■学校行事・学科行事、授業内での諸活動等を通じたリーダーシップ・フォロワーシップの育成が概ね実現**<br>①②③「学校生活満足度調査」における学校生活の満足度（充実度）が89%で昨年度(84%)と同程度となった。<br>②③「学校生活満足度調査」における生徒指導・支援に関する調査項目の保護者の肯定解答割合が96%で昨年度(97%)と同程度となった。<br>③教育相談委員会を月1回開催し、スクールカウンセラーや臨床心理士等の外部人材や外部機関等と適切に連携した生徒支援を実施した。 | A | | |
| 3 | **■現状**<br>・東京芸術大学をはじめとする芸術系大学への進学希望者が大多数であり、芸術系の私大を中心に、約８割の生徒が現役で進学している。<br>・「スタディサプリ」の導入や朝学習の実施など隙間時間を有効活用する取組が展開されている。<br>・学習及び進路支援システムが導入・活用され、生徒の多様な進路希望に適切に対応するための環境が整いつつある。<br>**■課題**<br>・県内唯一の芸術系専門高校である本校に寄せられる期待に応えるため、芸術系大学への進学をはじめとする進路実績を確保する必要がある。<br>・生徒が早期段階から自らの将来を見据え、進路設定と自己実現に向けたプランニング力、セルフマネジメント力を身に付けさせる必要がある。 | 1　自学自習力の育成 | ①「スタディサプリ」動画授業の利用促進に向けた定期的な生徒への働きかけと確認テスト等の結果に応じた宿題配信機能の活用<br>②「スタディサプリ（到達度テスト）」「スタディサポート」「実力判定テスト」や「生徒ポートフォリオ」等に関する教員研修（結果分析会）の実施<br>③自学自習力を高めるための朝自習の内容の工夫・改善<br>④各年次と各学科及び共通教科が連携し、受験科目及び実技試験の効果的・効率的な補習や補講を実施<br>⑤新学習指導要領の実施と大学入試改革の動向を踏まえた教育課程の見直しと「高校生のための学びの基礎診断」の効果的活用法を検討・実施 | ①②③自学自習力が身に付き、共通教科の学習に取り組もうとする生徒の姿勢に変化が認められるか。<br>③「朝自習」において与えられた課題だけではなく、生徒自ら学習内容や方法を見つけて取り組む姿勢が認められるか。<br>④生徒のニーズに合った共通教科の夏季休業中補習講座の開設数が前年度以上または同程度になったか。<br>⑤新学習指導要領の実施に向けた教育課程の編成に着手できたか。<br>⑤「高校生のための学びの基礎診断」の結果を活用するための道筋がついたか。 | **■学習環境は順調に整備されつつあるが、生徒の自学自習力の育成に向けて更なる工夫が必要**<br>①②③「学校生活満足度調査」における生徒の共通教科への取組に関する調査項目の肯定回答が76%で、昨年度74%と同程度となり、生徒の姿勢の変化が認められるまでには至らなかった<br>③朝自習の取組が成績に反映される科目に関しては提出率が高く取組も良好であったが、自ら学習内容や方法を見つけて取り組めたのは一部の生徒に留まった。<br>④共通教科の夏季休業中補習講座の開講数は19講座で昨年度の1.2倍となった。<br>⑤新学習指導要領の実施に伴う新たな教育課程の編成は今後着手する。<br>⑤「高校生のための学びの基礎診断」は業者との連携により年次単位の分析会や振返りの機会を２回設けた。 | B | **■次年度への課題**<br>・文部科学省から示された大学入試改革の具体的な方針を踏まえ、芸術系大学の多様な入試に対応するための本校の進路指導の在り方を研究・検討する必要がある。<br>・「大学入学共通テスト」「英語資格・検定試験」「JAPAN e-Portfolio」等への対応方針に基づき、校内での生徒への支援体制を強化する必要がある。<br>・引き続き、県内唯一の芸術系専門高校である本校に対して寄せられる期待に応えるため、芸術系大学への進学をはじめとする進路実績を確保する必要がある。<br>・早期段階に進路目標を明確化させると同時に「自学自習」の意欲を高める更なる工夫が必要である。<br>**■改善策**<br>・「大学入学共通テスト」「英語資格・検定試験」の受験に向けた段階的な指導と校内体制を確立する。<br>・大学入試における「JAPAN e-Portfolio」の利用に対応するため、生徒が適切に情報を蓄積できるよう指導する。<br>・年次と学科及び共通教科担当教員が連携し、芸術系大学への進学を主眼に置いた、実技試験対策や受験科目の補習・補講等を効果的、効率的に実施する。<br>・「高校生のための学びの基礎診断」等の活用など生徒自らが学力の向上を実感できる仕組み（PDCAサイクル）と、自学自習力向上の実効性を高める取組を検討・実施する。 | **■評価項目（年度達成目標）1に対する学校自己評価年度評価の達成度B及び2に対する達成度Aは妥当である。**<br><br>・芸術は短期間の努力では、思うような成果が見込めない。更に芸術の専門的な技術や表現力を向上させるためにも、上級学校に向けて大いに挑戦して欲しい。<br><br>・自学自習力に対する達成度がＢということから、膨大な情報の中で、受動的になりがちな様子が窺える。現在の生徒を取り巻く状況を鑑みれば、簡単に非難することはできないが、与えられた情報を鵜呑みにする癖がつくことは避けたいところである。膨大な情報と対峙しながらも批評的な目でそれらを精査する力を育んで欲しい。<br><br>・2020年度からの大学入試改革への対応と、芸術総合高校の生徒一人一人の個性や希望に沿った進路指導やサポートを引き続きぜひお願いしたい。 |
| | | 2　大学等進学に向けた早期段階からのプランニング力とマネジメント力の獲得 | ①各種進路ガイダンスの体系化と実施内容や実施形態の工夫<br>②1･2年次での第1志望届提出に向けた計画的・段階的な指導と3年次での模擬試験(5回)と「COMPASS（進路支援システム）」を連動した一般受験指導を効果的に実施<br>③「Japan e-portfolio」導入に向けた指導を実施 | ①②③「学校生活満足度調査」における進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。<br>①②③生徒との面談や進路行事・進路ガイダンスにおける生徒の反応に早期の進路意識の向上が認められるか。<br>②2年次冬季休業までに進路希望を固め、第1志望届の提出者数が9割程度になったか。 | **■大学等進学に向けた早期段階からのプランニング力とマネジメント力の獲得が概ね実現**<br>①②③「学校生活満足度調査」における進路指導に関する調査項目の肯定回答が91%(昨年度88%)となった。<br>①②③担任や学科教員との面談、分野別進路ガイダンス等で大学等進学に向けた早期の意識向上が認められ、ほとんどの生徒が進路選択の方針を定めている。<br>②2年次における第一志望届の提出者数は9割を超えている。 | A | | |
| 4 | **■現状**<br>・地域コミュニティや関係機関と連携した芸術的表現活動やアウトリーチ活動を積極的に実施している。<br>・「芸総アンバサダー」を軸に、学校広報活動を積極的に展開している。<br>**■課題**<br>・「芸総ブランド」を地域社会に更に浸透させるため、全教職員が総力を挙げて学校広報活動に取り組む必要がある。<br>・生徒の芸術的表現活動を通じて、地域社会を活性化させ、魅力ある社会づくりと芸術文化の振興発展に貢献する必要がある。 | 地域社会での芸術的表現活動を通じた「芸総ブランド」の浸透 | ①【美術】外部機関と連携した展示企画の推進と所沢市内中学校美術部との交流事業の継続実施【音楽】中学校訪問やWebサイトの充実と地域活動への積極的参加【映像】学科内の広報業務の継続方法構築と円滑な情報伝達のための広報量の確保【舞台】地域からの依頼への可能な範囲での協力と中学生対象ワークショップにおいて「演劇体験」に加えて「舞踊体験」も実施<br>②「芸総アンバサダー会議」におけるアンバサダーとの連携協力体制の確立と「芸総ブランド」を浸透させるための新たな方策を検討・実行<br>③学校説明会等における共通教科教員の役割分担の見直しと個別相談対応等の更なる充実<br>④広聴広報に係る予算を確保した上で、効果的・効率的な執行管理と学校施設の魅力化を実行 | ①②③④本校の魅力や特色が中学生やその保護者、中学校等に伝わり、学校説明会等でのアンケート結果で肯定回答割合が向上するとともに外部機関等から寄せられる意見や感想等が好意的評価であったか。<br>①②外部機関や「芸総アンバサダー」等と連携した広報活動の実績数が前年度以上または同程度となったか。<br>③学校説明会や各学科の体験入学への参加者及び学校行事での来校者数が前年度以上または同程度となったか。<br>④広報広聴に係る予算を確保し、広報活動を推進できたか。 | **■生徒の芸術表現活動のアウトリーチを積極的に展開することで、地域社会での「芸総ブランド」の浸透が一定程度実現**<br>①②③④生徒の校外における創作活動や表現活動の実施回数は47回で、昨年度1.2倍（一昨年度1.4倍）となった。<br>①②③④学校説明会や体験入学（体験レッスン）等の参加者アンケートでは好意的な評価がほぼ100%であった。<br>①②所沢市役所や所沢市教育センター等の外部機関や「芸総アンバサダー」と連携した広報活動の実績数は、前年度を大幅に上回った。<br>③本県の中学卒業者数がここ数年1,000人程度毎年減少していく中で、学校説明会や各学科体験入学への参加者数は前年度以上または同程度を確保できた。<br>④後援会予算を活用し、広報公聴に係る予算は十分に確保できた。 | A | **■次年度への課題**<br>・「芸総ブランド」を地域社会に更に浸透させるとともに、県内全域における本校の知名度を向上させて生徒募集の実効性を更に高める必要がある。<br>・生徒の芸術表現活動を通じて、魅力ある地域社会づくりと芸術文化の振興発展に更に貢献していく必要がある。<br>**■改善策**<br>・アートマネジメントの観点を踏まえ、生徒の創作活動や芸術表現活動と地域社会との接点を積極的に創出する。<br>・「芸総アンバサダー会議」を中心にステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく学校広報活動を展開する。<br>・本校を会場とする学校説明会や体験入学、各種イベント等の来校者にインパクトを与え、リピーターを増やすための取組を検討・実施する。 | **■評価項目（年度達成目標）に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。**<br><br>・「芸術に特化している高校」の魅力を全県・全国に向けて今後も積極的にアピールして欲しい。<br><br>・「芸総ブランド」は十分に浸透しているように感じられる。今後更に取り組む価値がある試みとしては、地域の文化的拠点としての機能を持った学校像を模索してはどうか。多様な立場の方々を交えた検討を行うことで、ハード（建物や空間）とソフト（人材）の両面から新たな学校の価値を発見することができるかもしれない。 |